

鎌倉の埋蔵文化財 9

Buried Cultural Properties in Kamakura 9

平成15～17年度発掘調査の概要



～ごあいさつ～

私たちの暮らす鎌倉の地下には、かつて栄えた中世都市の跡が埋蔵文化財として今でも多く遺^{のこ}っています。これらの文化財は残念ながら、さまざまな土木工事等によってそのままの姿で保存できないことが少なくありません。工事で失われてしまう埋蔵文化財と現在の市民生活との調和をはかるために、現状保存のかなわない遺跡については発掘調査を実施して可能な限り記録化を図り、その様子を今日の私たちが理解できるようにすると同時に、将来へ伝え活用してゆくこととしています。

鎌倉市教育委員会では発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、文化財めぐりでの発掘調査現地説明会、鎌倉駅地下道ギャラリーでの埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を皆様にご紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財 9』では平成15年度から17年度にかけて発掘調査を実施した遺跡のなかから、代表的なものを選んでその概要をお知らせいたします。本誌をご覧になる皆様にも往時を生きたひとびとの姿が彷彿^{ほうふつ}としてくるのではないのでしょうか。これからもさまざまなかたちで発掘調査の成果をお知らせするよう努めてまいりたいと思います。

～目次～

1. 北条義時法華堂跡	2
2. 北条高時邸跡	6
3. 若宮大路周辺遺跡群	7
4. 今小路西遺跡	9
5. 長谷小路周辺遺跡	11
英文要旨	13

～例言～

◎本書は平成15～17年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

本書に掲載した遺跡の調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

伊丹まどか、菊川英政、久保田裕美、滝澤晶子、原廣志、福田誠、宮田眞、森孝子（50音順・敬称略）

《表紙写真》北条義時法華堂跡発掘調査区全景（上）・発掘調査風景（下段右）・文化財めぐり（平成17年6月27日開催・下段左）

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫を、また、英文翻訳は山口由紀子氏にお願いしました。

1. 北条義時法華堂跡 Hojo Yoshitoki Hokedo site

鎌倉幕府第2代執権の法華堂跡（墳墓堂）

北条義時法華堂跡は鶴岡八幡宮の東方、国指定史跡「法華堂跡（源頼朝墓）」東隣りの山の中腹に所在します。この場所は平成17年度に実施した発掘調査によって、基壇上^{きだん (注1)}に建つ礎石建物跡^{そせき (注2)}が発見されました。縁^{えん}の礎石の一部と雨落ち溝の石列があり、残っていた縁の礎石と建物本体の礎石の抜き跡から、一辺が8.4mの正方形で、屋根^{のき}の軒の出が12.4mの規模^{さんげんどう}の三間堂と推定できました。また、出土遺物の年代から推して、建物の廃絶時期は13世紀末から14世紀初頭頃と思われます。

北条義時（1163～1224）は鎌倉幕府初代執権北条時政（1138～1215）の子で、第2代執権として、元久2年（1205）～元仁元年（1224）の間その任にありました。他の有力御家人を抑え、承久の乱で京都方に勝利するなど鎌倉幕府の基盤を固め、武家政権確立の道筋を築いた「武家の古都鎌倉」の実質的な創始者です。

『吾妻鏡』^{あづまかみ}元仁元年6月18日条に「前奥州禅門葬送す。故右大将家の法華堂の東の山上をもって墳墓となす」^(義時)の記述があり、この建物が北条義時の法華堂であった可能性が高いと考えられます。

今回の調査成果は、鎌倉幕府の中心人物の墓所の姿を知る上で貴重な発見といえましょう。

注1：お堂などが建つ、石や土で造られた地面より一段高い部分。

注2：建物の柱をのせる基礎の石。



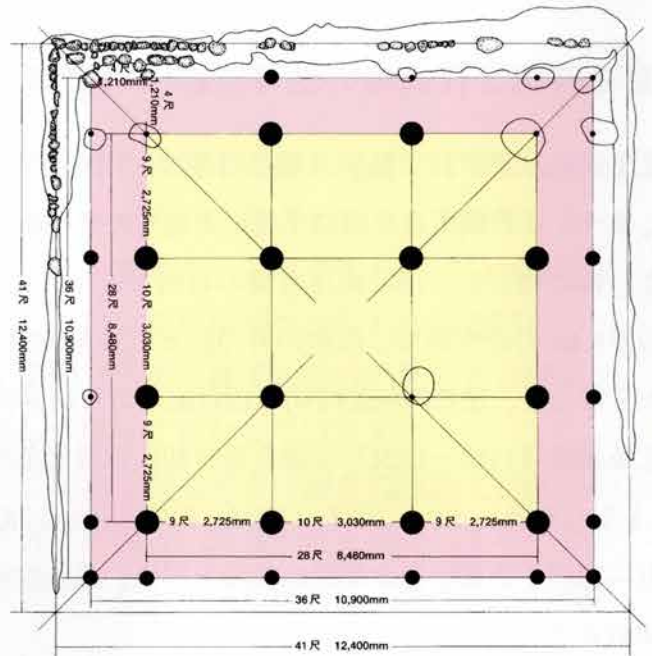
北条義時法華堂跡遠望（写真中央右）

Aerial view of Hojo Yoshitoki's Hokedo



北条義時法華堂跡発掘調査区全景

Aerial view of Hojo Yoshitoki's Hokedo site excavated



法華堂概念図
Hokedo building shape

凡例
 建物本体：Building
 軒範囲：Eaves



発掘調査区近景

View of the excavated site



雨落ち溝（北西角）

Rain gutter ditches (north-west corner)



かわらけ出土状態（北西角）

Kawarake earthenware unearthed (northwest corner)

北条義時法華堂略年表（『吾妻鏡』を中心に）

元仁元年（1224）

6月13日 義時死去。

6月18日 義時葬送。頼朝法華堂の東の山上を墳墓とした。

8月8日 義時の墳墓堂を「新法華堂」と号し、供養があった。

嘉禄元年（1225）

6月13日 義時一周忌。新造の釈迦堂で供養があった。

寛喜3年（1231）

10月25日 時房の公文所から出火し、頼朝法華堂・義時法華堂と、その本尊が焼失した。

11月18日 頼朝法華堂が上棟（義時法華堂もこの頃再建に着手か）。

暦仁元年（1238）

12月28日 時房・泰時らが、頼朝・政子・義時の法華堂に参詣（義時法華堂が再建されたことを示す）。

仁治2年（1241）

12月30日 泰時が、頼朝・義時法華堂に参詣。

宝治2年（1248）

閏12月13日 重時・時頼が、頼朝法華堂と義時法華堂に詣で、経巻を供えた。

建長2年（1250）

12月29日 重時・時頼が、頼朝・実朝・政子・義時の各法華堂を巡礼した。

弘安3年（1280）

10月28日 頼朝ならびに義時時房の法華堂が焼失した（『北条九代記』等）。

延慶3年（1310）

11月6日 鎌倉大火で、法華堂など建物が多数焼失した（『北条九代記』等）。

※『北条九代記』等には「法花堂」としか記されず、弘安三年大火後の義時法華堂の再建については不明です。しかし、建物内外からの出土遺物には15世紀頃の資料があり、何らかの形で義時法華堂が持続した可能性も考えられます。



かわらけ出土状態
（西側）

Kawarake earthenware
unearthed

2. 北条高時邸跡

Hojo Takatoki Residence Site

鎌倉幕府執権邸跡の一部

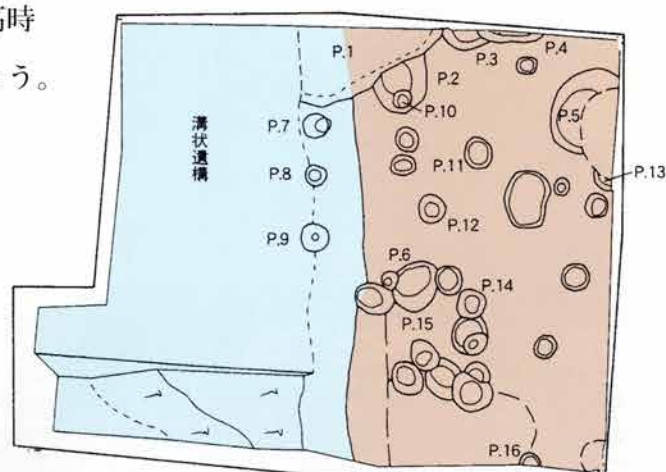
北条高時邸跡は鶴岡八幡宮の東南、宝戒寺とその周辺地域といわれています。調査地は同寺境内の南東奥で、ここでは平成16年度に実施した発掘調査によって、13世紀～14世紀中頃の遺構が発見されました。幅が4m以上になると思われる大規模な溝が調査区南半分の東西に伸び、溝の西壁と調査区北側には柱穴などが見られます。また、この調査区からは‘かわらけ’のほか、中国製磁器などが出土しました。

なお、北条高時（1303～1333）は鎌倉幕府の第14代執権です。元弘3年（1333）新田義貞（1301～1338）の鎌倉攻めに際し、宝戒寺背後の山中にあった東勝寺で一族とともに自刃しました。

今回の調査では、大きな溝のほか、建物の存在を確認しました。溝については、その規模が大きいことから敷地を画するためのものと考えられ、北条高時の屋敷の範囲を考える上で貴重な発見といえましょう。



青磁等出土状態 (P.15)
Chinese celadon in situ (p15)



遺構平面図 Site map
P: 柱穴など P: Postholes



北条高時邸跡発掘
調査区全景
View of Hojo Takatoki's
residence site

3. 若宮大路周辺遺跡群

わかみやおおじしゅうへんいせきぐん

Sites surrounding the Wakamiya-Oji

中世の武家屋敷の跡

若宮大路周辺遺跡群は若宮大路を中心に、西側をいまこうじ（注3）、東側を（注4）小町大路、南側を下馬より長谷に向かう道にはさまれた南北約1 km、東西約500mの範囲です。調査地は小町大路沿い、妙隆寺の北東に位置し、鎌倉時代、都市中心部の一部として栄えた場所であったと思われます。

平成15・16年度に実施した発掘調査の結果、ここからは13世紀前半から後半にかけて4つの遺構面が見つかりました。とくに第2面で発見された南北方向の柱穴は直径が60 cm程の大きなもので、大規模な掘立柱建物跡であることが想像されます。また、青磁や白磁などの中国製磁器のほかに、国産陶器や漆器等も出土し、屋敷地であった可能性もあります。

調査地点周辺には屋敷跡の伝承はありませんが、今回の調査成果は、武家屋敷の姿を知る上で貴重な発見といえましょう。

注3：寿福寺と御成小学校前を通る道。

注4：宝戒寺から妙本寺門前に通じる道。



若宮大路周辺遺跡群発掘調査区全景

View of sites surrounding Wakamiya-Oji



溝と柱穴等 (第3面)
Ditches and postholes (3rd layer)



溝の護岸材及びかわらけ出土状態 (第2面)
Wooden packing materials for the ditch and kwarake
earthenware *in situ* (2nd layer)



柱穴 (第2面)
Postholes (2nd layer)

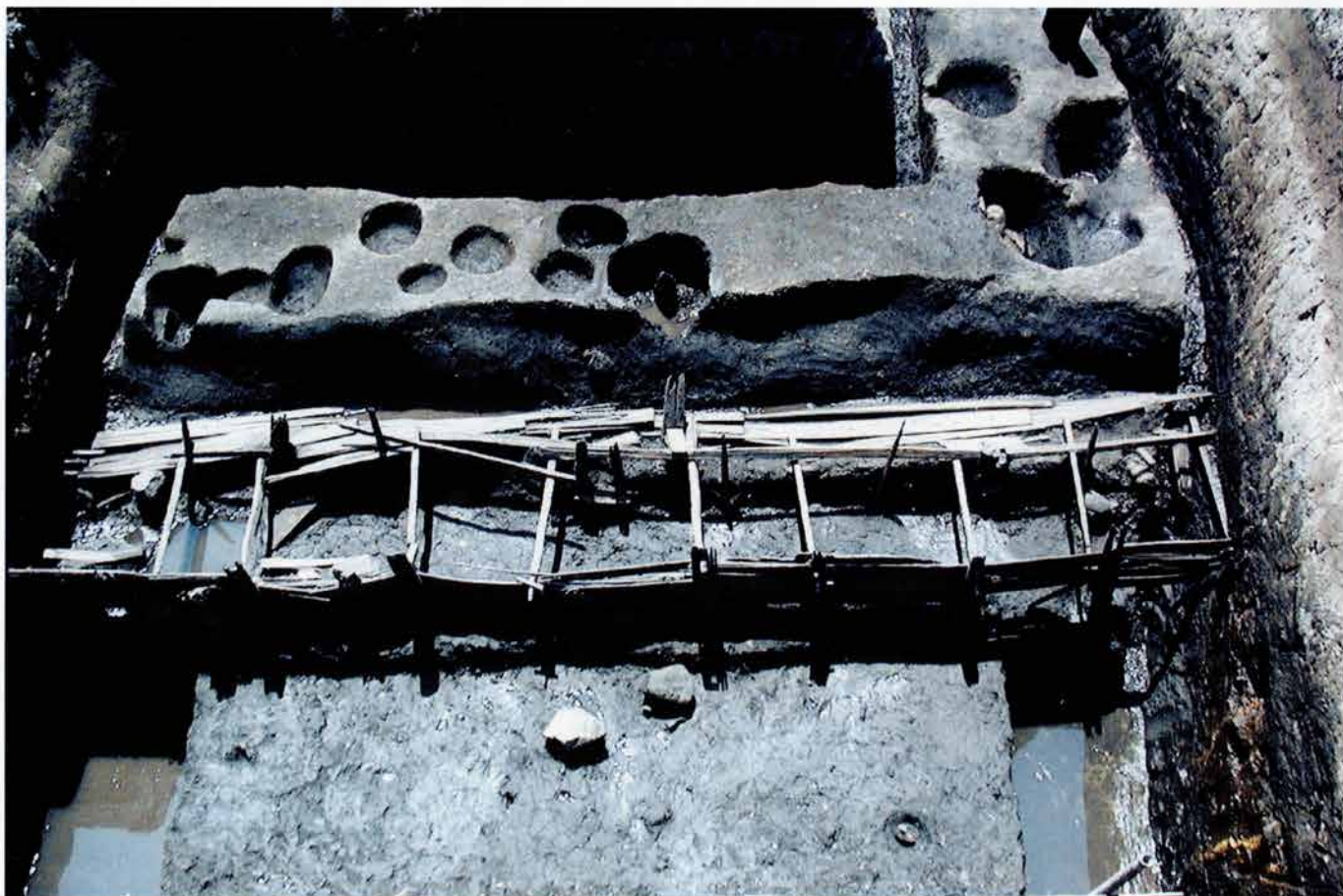
4. ^{いまこうじにしいせき}今小路西遺跡 Ima-Koji West Site

中世の武家屋敷の跡と古代の郡役所関連施設

今小路西遺跡は市立御成小学校沿いの南北方向に伸びる今小路の西側、南北約1km、東西約300mの範囲です。調査地は市役所の道路を隔てた北側に位置します。平成15年度に実施した発掘調査の結果、ここからは12世紀末から14世紀前半にかけての4つの中世遺構面と、奈良・平安時代の遺構面がありました。

とくに中世の第2面からは多くの中国製磁器の破片が、第3面からは大きな池がそれぞれ確認され、武家屋敷の一角であったことが推定されます。このほか、池からは^{ふながた}舟形や^{こま}独楽・^{ぞうり}草履などの木製品とともに、木製傀儡人形の^{くぐつ}‘カシラ’が出土したことから、中世鎌倉で^{あやつ}操り人形を用いた多様な雑芸を営む人びとがいたことがわかり、注目されます。また、調査区最下面の奈良・平安時代の遺構では、複数の溝や穴があり、^{かわら}瓦が出土しました。詳しいことはわかりませんが、ここから150m程離れた御成小学校敷地内では奈良・平安時代の鎌倉郡役所の跡が見つまっているため、それにかかわる施設があったことが推測できます。

このように今回の調査成果は、この場所が古代から中世にかけて栄えたことを知ることができる点で、貴重な資料といえましょう。



今小路西遺跡発掘調査区全景（池と護岸・第3面）

View of Imakoji West site (Pond and packing materials of the pond)



遺物出土状態 (池・第3面)

View of the artifacts *in situ* (pond: 3rd layer)



磁器等出土状態 (第2面)

View of the porcelain *in situ* (2nd layer)



中世以前の遺構

Archaeological layer dating before the
medieval period

5. ^{は せ こうじしゅうへんい せき}長谷小路周辺遺跡

Sites surrounding Hase-Koji

中世の生産作業場の跡

長谷小路周辺遺跡は^{げ ば}下馬から長谷寺門前に至る長谷小路周辺の東西約1 km、南北約200mの範囲です。調査地は江ノ電和田塚駅に近く、その南西側に位置します。平成15・16年度に実施した発掘調査の結果、ここからは12世紀末から14世紀前半までの2つの中世遺構面が確認されました。

12世紀末から13世紀初頭とされる第1面は溝によって区画され、13世紀前半から14世紀前半とされる第2面からは^{ほうけいたてあなけんちく し}方形竪穴建築址と呼ばれる半地下式の建物跡や穴などが切り合った状態で見つかっています。また、出土遺物の中に^{じゅうこつ}獣骨が見られますが、このうちイヌはほぼ完全な状態で出土した反面、ウマやウシなどは部分的で、中には解体する際に生じたと思われる痕跡や、加工の痕^{あと}が見られました。さらに、サイコロや^{こうがい (注5)}筭・装飾品などの骨製品、^{とうす}釘や刀子等の金属製品、^{ふいご はぐち}鞆の羽口なども出土しており、この場所が鎌倉の中で生産の場であったことが想像されます。

注5：髪をかきあげる際に用いた細長い道具のこと。



長谷小路周辺遺跡発掘調査区全景

Aerial view of sites surrounding Hase-Koji



溝と方形竪穴建築址（第2面）

Ditch and sunken featured square pit building site (2nd layer)



方形竪穴建築址（第1面）

Sunken-featured square pit building (1st layer)



獸骨出土状態
Animal bones *in situ*

Buried Cultural Properties in Kamakura 9

1. Hojo Yoshitoki Hokedo site Tomb temple Hokedo of 2nd regent Hojo Yoshitoki

Hojo Yoshitoki (2nd regent of Kamakura shogunate government) Hokedo site is located east of the Tsurugaoka Hachiman shrine, on the hillside of “Hokedo (Minamoto no Yoritomo’s grave)”, the designated national historical ruin.

The excavation in 2005 revealed a platform higher than the ground with the foundation stones of a building. There were remains of corner foundation stones and stone rows of rain water gutters. Judging from the remainder of the foundation stones and foundation holes, we believe the building that once stood here was 8.4m × 8.4m square shaped with the about 12.4m roof width (i.e. measuring from one side of the roof eaves to the other). Furthermore, examining the unearthed artifacts indicate that the building was abandoned probably at the end of the 13th century through to the beginning of the 14th century.

Hojo Yoshitoki (1163-1224) was the son of Hojo Tokimasa (1130-1215), the 1st regent of the Kamakura shogunate government. Succeeding father Tokimasa’s position he acted as the 2nd regent and the representative of the shogunate from 1205 to 1224. Yoshitoki is known to be the substantive founder of “Kamakura the samurai capital”. This is because he solidified the power of the shogunate government by controlling other powerful samurai families to bring victory to Kamakura shogunate over the Emperor’s forces from Kyoto in Joku War.

A strong written evidence suggests that the site is Hojo Yoritomo’s tomb. According to 18th June, 1224 record of the late 13th century Japanese historical classic “Azuma Kagami”; “*Hojo Yoritomo’s tomb temple Hokedo was established on the east side of Yoritomo’s*”.

The result of this excavation is valuable to understand the final resting place of this central political figure in Kamakura shogunate.

2. Hojo Takatoki Residence Site Residence site section of 14th regent Hojo Takatoki

Hojo Takatoki residence site is known to exist somewhere on the southeastern side of Tsurugaoka Hachiman shrine, around Hokaiji temple and its surrounding areas. The 2004 excavated location is at the back end of Hokaiji temple compound on the south-eastern side. The site dates back to the 13th to mid 14th century. It revealed an extended ditch over 4m in width from east to west that took up more than half of the excavated section. Postholes were identified on the west wall of the ditch as well as north of the section. Together, earthenware called “kawarake” and fragments of Chinese porcelain were recovered.

Hojo Takatoki (1303-1333) is the 14th regent of Kamakura shogunate. He and his clan committed suicide in 1333 at Toshoji temple located in the mountain behind Hokaiji temple when Nitta Yoshisada (1301-1338) besieged Kamakura.

The 2004 excavation discovered the ruins of other buildings beyond the large ditch. Evidence has led us to believe that the compound was separated into several areas by this ditch. This is an important discovery to inform us about the sheer scale of the residence compound.

3. Sites surrounding the Wakamiya-Oji Medieval samurai residence

Sites surrounding Wakamiya-Oji lie on the 1km north-south and 500m east-west stretch of Wakamiya-Oji road, to the south from Geba to Hase surrounded by Ima-Koji (road from Jufukuji temple to Onari Elementary School) to the west and Komachi-Oji (road from Hokaiji temple to Myohonji temple entrance) to the west. The research took place on the Komachi-Oji road side, north-east of Myokoji temple. This location is believed to have prospered as a part of the city center in the Kamakura period.

The 2003 and 2004 research uncovered four stratigraphic layers from early to later 13th century. One of the postholes discovered on the site was particularly large, approximately 60cm in diameter. This indicates that there was a large shack supported by pillars without foundation. Besides the Chinese porcelains such as celadon and white porcelains found on these layers, there were also domestic wares and lacquer wares. Collecting all these evidences, the site suggest for a possible samurai residence.

Although there is no oral or literal tradition informing us of any medieval residence, this discovery is important as to understand more about the samurai residence.

4. Ima-Koji West Site

Samurai residence and administrative office related facility

Ima-Koji West site is the area to the west of Ima-Koji road along Onari Elementary School, which encompass the area 1km north-south and 300m east-west. The excavated area lies at the north side, opposite to Kamakura city hall building. The 2003 excavation revealed four stratigraphic layers from late 12th to early 14th century medieval period and a layer from Nara to Heian period.

Of interests are 2nd and 3rd stratigraphic layers. From the 2nd layer fragments of Chinese porcelain were found, and the 3rd layer revealed a large pond. The evidence of the pond led us to believe this area used to be a samurai residence compound. Inside the pond, wooden remains of ship models, toy tops, slippers as well as a head of a wooden puppet were found. This puppet head finding highlights the fact that puppeteers and other performers lived and played in medieval Kamakura.

Furthermore, several pits and ditches with roof tiles were uncovered on the bottom stratigraphic layer dating from Nara to Heian period. Previously, in the adjacent Onari Elementary School compound about 150m in distance, we discovered an administrative office site from Nara to Kamakura period. Therefore, by proximity, the discovered remains can be a part of possible administrative office related facility.

This research excavation is important as it shows that this area has prospered from the ancient to medieval times.

5. Sites surrounding Hase-Koji

Medieval industrial site

Sites of Hase-Koji lie approximately on 1km east-west and 200m north-south stretch, around Hase-Koji road and Hase-temple entrance gate. The research excavation took place on the south-west of this area in proximity to Wadazuka station of Enoden railway line. The 2003 and 2004 excavation confirmed two medieval stratigraphic layers from late 12th century to early 14th century.

The 1st stratigraphic layer that dates back to the late 12th century to early 13th century was separated by several ditches. The 2nd stratigraphic layer that dates back to the early 13th century to early 14th century uncovered various remains of buildings and postholes of sunken-featured square pit dwellings. The artifacts recovered include animal remains, amongst these a complete dog skeleton. Bones of horses and cows were found but not in a complete state, some showing the signs of manufacture and typical cut marks caused when slaughtering animals. Furthermore, there were dice, hair comb sticks called “kougai”, ornaments made of bones, and metal artifacts including nails, knives and tuyères (bellow nozzle). These evidences indicate the possible medieval industrial location in Kamakura.

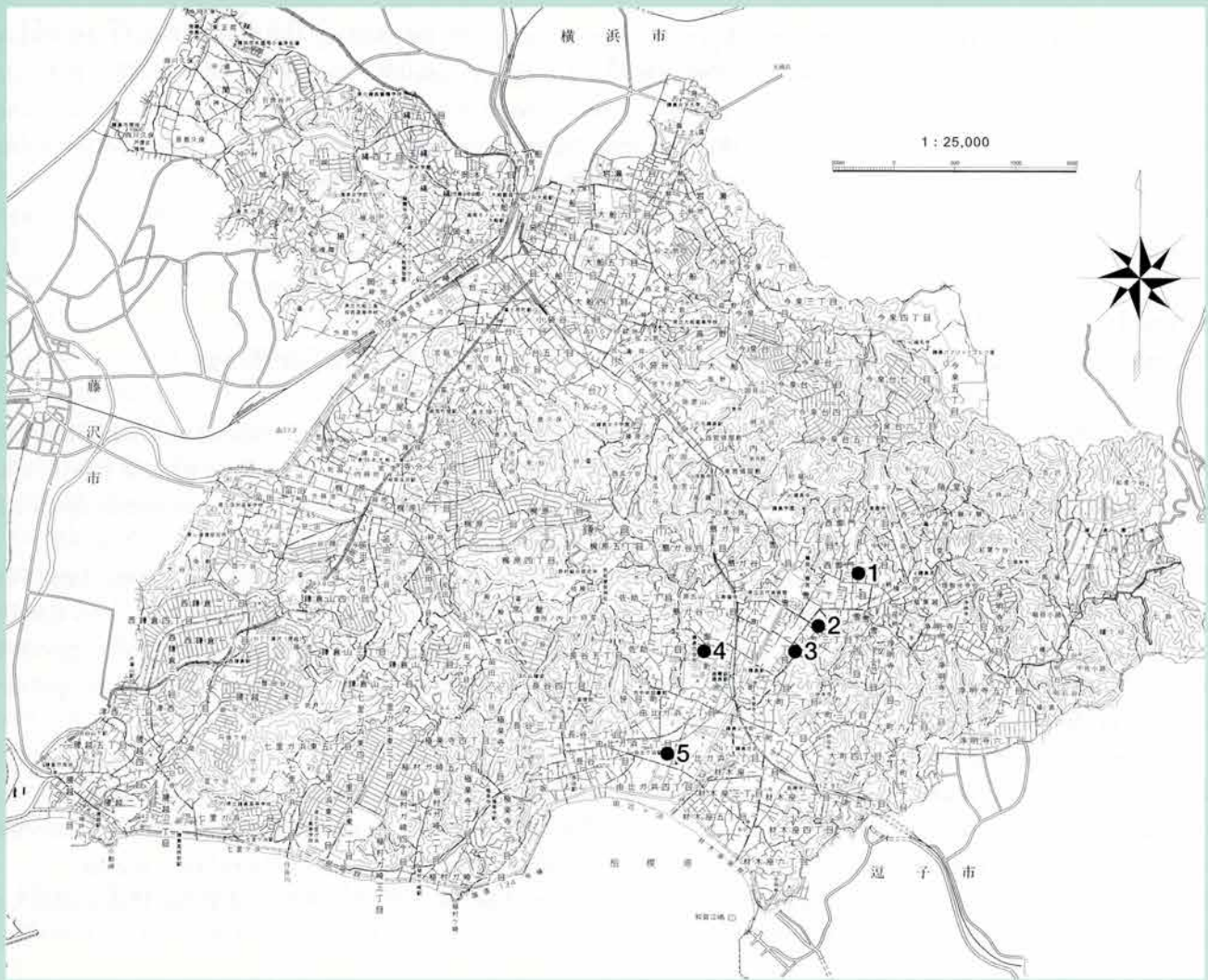


傀儡人形出土状態（今小路西遺跡 池・第3面）

View of the puppet *in situ*

(Imakoji West site Pond: 3rd layer)

本書掲載の調査地点



《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 北条義時法華堂跡の発掘調査地点（西御門二丁目686番外）
2. 北条高時邸跡の発掘調査地点（小町三丁目451番1）
3. 若宮大路周辺遺跡群の発掘調査地点（小町二丁目402番9外）
4. 今小路西遺跡の発掘調査地点（御成町200番2）
5. 長谷小路周辺遺跡の発掘調査地点（由比ガ浜三丁目1256番4外）

鎌倉の埋蔵文化財9

発行日 平成18年2月28日
編集・発行 鎌倉市教育委員会
印刷 グランド印刷株式会社
